

(財)札幌市環境事業公社 情報誌 第8号

アンパス

un pas

フランス語で「一歩」の造語。一歩一歩お客様との絆を深め、
ともに環境への理解を深めるという意味を込めました。



『朱実』 小出 匡 作

「アンパス」第8号の発刊です。

今回は、札幌薄野ビルチング協会様の生ごみ資源化の取組みの紹介・中沼雑がみ選別センターの施設紹介となっております。

本誌に対する皆様のご意見がございましたらドシドシお寄せ下さい。

また、自社の紹介・PRなど、本誌に掲載希望の記事がございましたら何なりとご連絡下さい。

お客様紹介



札幌薄野ビルディング協会
会長 藤井 英勝

当協会が今年度事業として掲げております「生ごみの資源化」すなわち、ススキノから排出されるごみの減量と同時に、排出される生ごみをリサイクルし、これを「飼料化」することで資源として活用する「運動を従来から推進してまいりました。

この11月初め「さっぽろラーメン横丁」で排出される生ごみのリサイクル化が実現、

このコーナーでは、ごみの分別やリサイクルの推進に取り組んでいる、当公社のお客様を紹介させていただきます。

今回は札幌薄野ビルディング協会会長 藤井英勝氏にススキノ地区における、生ごみ資源化の取り組みについてお話をうかがいました。

実行されたことは、誠に嬉しいことと、実施にあたってご協力をいただいた「さっぽろラーメン横丁」のみなさまを始め、北海道振興(株)毛利社長以下リサイクル担当部署の責任者・札幌市環境局環境事業部事業廃棄物課・まともに奔走いただいた(財)札幌市環境事業公社のみなさまに感謝申し上げます。

ありがとうございます。

当協会では、平成18年度事業でクリーン(きれい)なススキノを目指し、ごみの分別化・減量化を徹底し、循環型

ごみ処理(エコクリーン)体制をつくって行こうと提唱、会員ビルのみなさまに協力を呼びかけました。

同年9月には、本事業を担当する理事と事務局が「中央区クリーンさっぽろ衛生推進協議会」の主催するごみ処理施設見学会に参加、「白石清掃工場」、「駒岡資源選別センター」を視察し研修・研鑽した後、同9月21日に札幌市環境局と(財)札幌市環境事業公社の協力のもと、札幌東急インに会員ビル19社24名が集合し

「企業ごみ処理研修・研究会」を開催、会員ビルのみなさまに徹底を図りました。

結果、ビルそれぞれがごみ分別のため、回収ボックスを備え、ごみ庫の整理、整頓をするなど工夫し、各テナントの協力を得て分別を推進して参りました。

当時、積極的に分別事業推進中にあった北海道振興(株)がごみ減量化作戦で、ごみ量を16%減らしたほか、10%のコスト削減が実現したこと、ごみ減量でごみ庫がきれいになり、美観の向上につながったことなどで共有部分が清潔に保たれ、環境づくりに非常に効果があったとの発表があり、その後、各ビルにも順次浸透し、ごみの分別・減量化が推進されて参りました。

平成19年5月当時「定山溪温泉」が、ホテルから出る生ごみを堆肥化し、それを使って栽培した野菜を温泉街の宿泊施設が提供する「生ごみ堆



ごみ庫 (ダストステーション)

肥化モデル事業」を推進中であったこともあり、札幌市環境局と(財)札幌市環境事業公社からの呼びかけで、当ススキノ地区でも排出される生ごみを定山溪温泉同様、リサイクル化し「生ごみの資源化・循環型ごみ処理」エコクリーン事業に挑戦してもらえないかとの打診がありました。

早速、理事・監事会で協議し、これに対応すべく「20年度協会事業」として、取組みを総会で決議し、モデルビル2棟を選出、「ススキノ地区生ごみ資源化」運動が事業化されました。

推進にあたっては、ビルオーナーと入居テナントの運動への理解と協力が不可欠であると、札幌市環境局及び(財)札幌市環境事業公社の指導のもと、テナントの指導を徹底し、札幌市から提供の回収ボックスの設置、ビルオーナーによるごみ庫の新設・ごみ庫の整備等で「分別と生ご

みの排出」が順調に推移、モデル事業は成功いたしました。このことは、同年6月19日付、北海道新聞に「生ごみが大量に出る道内最大の歓楽街で飲食店ビル2棟を対象に生ごみ分別試験事業が展開される」と掲載され、また、札幌市としてはススキノでの分別拡大を目指す「今回の事業をテコに分別と資源化を広げ、少しでもごみ減量化につなげたい」と同じく報道されています。



さっぽろラーメン横丁

き続き「ごみの減量と資源化」を21年度事業に盛り込み、回収ボックスを協会から提供することで予算化、総会での承認を経て会員ビルの本事業への参加を募りました。

今年度、手を挙げていただいたのが、(株)さいとう(西田美枝子社長)が経営する「忘梅亭」と北海道振興(株)が運営する「グリーンビルグループ」でした。

すでにこの7月、(株)さいとうから出る生ごみを、(財)札幌市環境事業公社が回収しており、この度、北海道振興(株)が管理する「さっぽろラーメン横丁」が新たに参加、協力いただいた次第です。

当面排出量は約300tと予想され、大量に出る生ごみは事業の目的を十分満足させるもので、今後北海道振興(株)はビル本体でも周囲の環境整備のうへ、テナントの協力を得た中、本事業に参加したいと、

意欲的で大いに期待しております。

協会全体として、本事業に参加するビルがまだ少ないのですが、事業の継続性を持続することで、「明るく・清潔で・安全で・安心できる」ススキノを目標に、今後とも会員ビルの協力を得て「生ごみ資源化」ビルを拡大していきたいと考えております。

さっぽろラーメン横丁の皆様	
ひぐま	
喜龍	
天鳳	
おちぢ	
華龍	
二代目 萬来軒	
富屋	
満龍	
弟子屈ラーメン	
来々軒	
けらあん	
白樺山荘	
武蔵	
四代目とらや食堂	
みぞラーメンのよし乃	
札幌ラーメン 熊吉	
國光	

家庭から排出される
「雑がみ」の選別処理施設

中沼雑がみ選別センター

今回は「札幌市リサイクル団地」内で操業している「中沼雑がみ選別センター」をご紹介します。



平成21年7月から札幌市の家庭ごみが有料収集となり、それに伴い、同市は新しい分別区分を設けて「雑がみ」の無料収集を開始しました。

この為に、同市は札幌市リサイクル団地内の旧建設系廃材リサイクルセンターに新規選別ラインの設置などの改修を施し、「中沼雑がみ選別センター」として、平成21年7月から稼働を開始しました。

「中沼雑がみ選別センター」の処理工程

この施設は、家庭からごみステーションに出された「雑がみ」を再資源化するため、選別・圧縮・梱包する施設です。

- 1 計量所で重量を計量後、受入ヤードで「雑がみ」を受入れ、ローダーで受入ホッパに投入します。
- 2 その後、一次手選別ラインで「雑がみ」に混入している、新聞、雑誌、段ボール等の主要古紙を手作業で取り除きます。
- 3 破袋機でゴミ袋を破った後、除袋機等の機械設備で、ビニール袋など



の不適物を取り除きます。

- 4 更に、二次手選別ラインで、リサイクルに適さない不適物を手作業で除去します。

この二次手選別は、知的障がい者の雇用を促進するために札幌市が福祉団体に業務を委託しており、同市の福祉行政の一翼を担っています。

- 5 以上の工程により不適物を取り除かれた後、梱包機で圧縮、梱包し製品（ペール）となります。

重量は約930kg、大きさは約1.7m³です。

この製品（ペール）は、再商品化事業者へ引き渡され、トイレットペーパーやティッシュペーパーとしてリサイクルされます。



札幌市が収集する「雑がみ」ってなに??

「雑がみ」とは、札幌市の指定する「雑がみの日」に、ご家庭から地域の「ごみステーション」に出される、主要古紙（新聞・雑誌・段ボール）と汚れた紙以外の紙類の総称です。

施設概要

- ・ 所在地：札幌市東区中沼町45番地19
(札幌市リサイクル団地内)
- ・ 総床面積：19,885m² 鉄骨2階建て
- ・ 処理対象物：雑がみ
- ・ 処理能力：85t/日
- ・ 操業開始：平成21年7月

平成22年1月発行

編集・発行／財団法人札幌市環境事業公社
札幌市中央区北1条東1丁目 サン経成ビル

<http://www.kankyou-sapporo.jp>

- 本誌に関するご意見、ご要望等
電話 219-2053 FAX 219-0882
- 事業系一般廃棄物の収集全般に関すること
電話 219-5353 FAX 219-0053